

産業構造審議会産業技術分科会・日本工業標準調査会合同会議知的基盤整備特別小委員会（第6回）-議事 要旨

日時：平成26年12月2日（火曜日）14時00分～16時10分

場所：経済産業省本館17階国際会議室

出席者

委員

日高委員長（※「高」は「はしごだか」）、荒井委員、長我部委員（島田代理）、海堀委員（河田代理）、勝田委員、金澤委員、小島委員（田中代理）、高橋（真）委員、高橋（洋）委員、田野倉委員、成田委員、松田委員、三木委員、安井委員、唯根委員

議題

1. 計量標準に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し
2. 微生物遺伝資源に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し
3. 地質情報に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し
4. その他

議事概要

※新委員長として、日高委員を選出した。

- 知的基盤整備計画・利用促進方策の見直しについては、審議の結果、事務局案が承認された。また、（1）～（3）の各分野及び全体を通じた主な意見は、以下の通り。

（1）計量標準に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し

- 知的基盤におけるグローバルリーダーシップを取るためにも、以前作成した「知的基盤の活用事例集」の英語化を検討してもらいたい。
- 計量標準分野に係るユーザーには色々なレベルの者があると考えられるので、今後のニーズ調査については考慮されたい。
- 整備済みの計量標準の利用実態に関しても調査し、定期的なフォローアップに反映するよう検討いただきたい。

（2）微生物遺伝資源に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し

- 国が行ってきたカルチャーコレクションの意味は大きい。バラエティに富んだ収集をこれからもお願いしたい。
- 情報の付加にあたっては、産業有用という点に重きを置いて実施してもらいたい。
- 海外由来の微生物遺伝資源の利用にあたっては、相手国とのギャップがある場合の対応が難しい。NBRCの知見の活用をさせていただきたい。

（3）地質情報に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し

- 日本の地質は非常に複雑。5万分の1の地質図幅については、100年間かけて日本全国の75%が整備されてきた。時間がかかって是非、作り上げてほしい。
- ボーリングデータの一元化は、非常に画期的な取り組み。各自自治体の人の理解が重要。特にこれらの情報が3D化することは、土木関係の情報としても注目するところであり、建設産業の高度化という点でも大変有用。日本の場合は地盤に関する文化的な認知度が非常に低い。脆弱な国土の中で減災、防災の観点でも重要。海外の事例を精査し、メリットをしっかりとらえて進めて欲しい。
- 地質図Navi、CCライセンス等は、大変活用しやすくなった。是非、産業界とキャッチボールを定期的に行って、より使いやすくしてもらいたい。産業界も入って、より国民にわかりやすいデータにしていく取り組みとして欲しい。

※ (1) ~ (3) の全体に係る意見

- よい情報を発信する場合には、その情報を発信したということを知ってもらうことが一番重要。今、一番反応があるのはSNS（フェイスブック、ツイッター等）。特に昨今の状況から、地質関係の情報は関心が高い分野であり、見る人も多いと思われるから、SNS活用が有効な手段であると思われるので、検討されたい。
- 発信に当たっては、HPの英語化についても検討してはどうか。
- 知的基盤の三つの分野に係る情報創出、保存、国のミッションの議論を俯瞰してみると、ユーザーとして誰を対象としたものか、という論点が重要。今後、エンドユーザー（国民）なのか、業界なのか、レイヤー分けをして整理してはどうか。
- 数字がないと規模感がわからない。コストと時間をかけると効果が出るのかという点から数字情報については、今後、出せるものは出してほしい。
- ユーザーは知的基盤の整備・普及の進展によって変わっていく。間口を広げることで、ユーザーの裾野が広がることが期待される。

お問合せ先

産業技術環境局 知的基盤整備推進室

関連リンク

[日本工業標準調査会知的基盤整備特別小委員会 - 概要](#)

[産業構造審議会産業技術分科会・日本工業標準調査会合同会議知的基盤整備特別小委員会](#)

最終更新日：2014年12月4日